



記者が大分市議会の取材を通して感じたことを書いたコラムです。読んでみよう。

## 議会傍聴席から

# 記者の目

【大分】議場が改修工事で使えなかった大分市議会6月定例会は、新型コロナウイルス

ルス感染予防のため、さまざまな対策

を施して審議を進めた。記者席と傍聴席は別室になり、モニター越しの議論からは新型コロナウイルス対応に苦闘する様子がうかがえた。

一例は一般質問のやりとり。井手口良一氏（おおいた民主ク）が

# コロナ、〇〇〇〇に備えを

コロナ禍での救急救命体制をただした。新型コロナウイルスと夏季に相次ぐ熱中症などの判別が主眼の一つだった。

がある人に、まず電話で医師の問診を受けるよう呼び掛けている。ただ、容体によっては救急車を利用せざるを得ない人もいるだろう。医療や保健衛生の分野と同じく、患者と接触する最前線の試行錯誤は尽きない。

冬季にはインフルエンザの流行も想定される。新型コロナウイルスとの長い闘いに備えるため、救急救命体制だけでなく、日常生活や市議会運営のスタイルなど再考すべき課題が解決に向かうよう、市議会の真摯な議論を聞き続けたい。（是永桂一）

①大分市議会 6 月定例会で、記者席と傍聴席が別室になったのはなぜですか？

.....

②市議会の議論を通じ、記者が「うかがえた」としているのはどんなことですか？

.....

③コロナ禍での救急救命体制（新型コロナウイルスと熱中症などとの判別）に関する議員の質問に、消防局の担当者は何と答弁しましたか？

.....

④見出しの〇〇〇を埋めてください。ヒントは記事の終わりの方にあります。

.....